戦争法案 広がる反対 熱増す行動

浜松 平和集会

学生の訴え

バングラデシュの先住民族に教育支援する学生NGO「ちぇれめいえプロジェクト」代表の渡部清花さん(24)が「ラブ&ピースミュージックパレード」(7月26日、浜松市中区)で発言した内容を紹介します。

海外で教育支援する学生NGO代表
静岡文化芸術大学
渡部 清花さん(24)

武装でなく 対話できる国に

◇

学生NGOの代表で支援しているバングラデシュから1カ月半前に帰ってきたばかりです。半年いなかった間に日本はおかしくなっていました。平和と安全と繁栄のためといって、日本が攻撃されてもいないのに自衛隊が他の国でたたかえるようになるといいます。戦後70年という大事な節目なのに悲しみと怒りを覚えます。

中身もなんですけど、もっとおかしいのは日本の根幹を変えてしまうのに、みんなの声を聞かなくて、議論が全然かみ合わず、どんどん前に進んでいくということです。

中学で習った民主主義、立憲主義の話を全部すっ飛ばした話をおとなたちがしています。バングラデシュで私がいた場所は元紛争地で軍が何よりも強く、司令官が言ったことが〝絶対の決まり〟になる。そこと同じじゃないかって。

70年間、日本は平和主義できました。戦争をしないことで築き上げてきた世界からの信頼が一瞬にして消えたらどうするんですか。

私が同世代の子に言いたいのは「どっちでもいい」とか「どうでもいい」というのはやめようということです。「どっちでもいい」というのが、いつかどこかで外国の子どもを殺すかもしれないことになるんです。

強行採決が迫っていると聞いたとき、国会前に足が向かっていました。デモというのは世論を可視化する、すごく大きな力だと感じました。地方でもできることがあります。議員さんたちの多くは地方から選ばれています。自らの票で未来は変えられます。

いま大学で毎週、安保法制の勉強会をやっているのですが、地味でも何でも続けようと思っています。せっかく民主主義の国に生まれたんだから、「政治の話はタブーじゃないよ」ということが当たり前になっていくきっかけを作りたいと思っています。

いま全国に広がる安保法制反対の動きに対して、ある議員さんが「国民生活にすぐに影響がないので国民はすぐに忘れるだろう」と言いました。でもそうはなりません。国民を甘く見てはだめです。私たちは忘れません。そして私たちはあきらめません。

「あの時、おかあさん、何やっていたの。なんで止めなかったの」って将来子どもにそう聞かれて、黙る私でいないようにしたい。

最後に、「その国の政治のレベルはその国の国民のレベル」だと言われます。だから政治批判だけでなくて、変わるべきは自分たちかもしれない、いや私かもしれない、と強く感じています。そう思ったから、私は今日ここにいます。

安倍さんの言う「武器を持って強い国」ではなくて、「対話ができる強い国」にしていきましょう。

「せんそおになりませんように」

長野・茅野でアピール行進

長野県茅野市で7月31日、戦争法案に反対する市民集会が開かれました。茅野駅西口縄文公園には60人近くが参加。集会の後、市役所までの約1キロをアピールウオークしました。茅野市9条の会、新婦人茅野支部、共産党茅野市委員会、社民党茅野総支部でつくる戦争法案を廃案にする茅野市民の会主催。

集会ではリレートークが行われ、「憲法違反の戦争法案は絶対に認めるわけにはいかない。廃案しかない」「戦時国策標語に『国のためなら愛児も金も』と言うものがある。安倍首相は戦後レジーム(体制)からの脱却を叫ぶが、このような戦前に決して戻してはならない」など8人が発言。絶対に廃案に追い込むという意気込みが語られました。

夕刻から始まったアピールウオークに多くの市民が関心を示し、遠くから大きく手を振る高校生や通勤帰りの車から共感の笑顔が目立ちました。

「せんそおになりませんように」とひらがなで書かれ、銃とミサイルの絵に×点が描かれたプラカードを持った5歳の子どもも参加。主催者は「若い人や新しい人の参加が増えている」と語っていました。

「戦争法案、絶対廃案に」を訴えるアピールウオークは市民の目を引きました＝7月31日、長野県茅野市

8/6 毎日